

事業番号	事務事業名	図書館図書購入費	所管課名	生涯学習課	令和 3 年度課長名	黒瀬 豊
06392	政策名	3 創造豊かな教育・文化の里づくり	係名	生涯学習課係	担当者・シート作成者	福島 久美子
	施策名	32 生涯学習の推進	根拠法令等	鏡野町立図書館条例及び同条例施行規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	種類、数において個人では入手できない規模の資料を収集し、長年にわたり広く共同利用できるように整備する。図書及び視聴覚資料はあらゆる分野から選定するとともに、利用者からの要望も加味し購入する。新聞・雑誌は予め選定したものを随時納品後に利用者へ提供する。	平成15年3月、鏡野町立図書館開館に伴い開始

2. 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
ア 町民	ア 町民人口	人	見込 実績	12,285 12,754	12,143 12,625	11,970 12,497	11,800	11,627
イ 近隣市町村住民	イ エリア内住民人口	万人	見込 実績	13 13	13 13	13 13	13	13
ウ	ウ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
ア 多くの人に本を読んでもらう	ア 年間個人貸出冊数	冊	目標 実績 達成率	140,000 112,397 80.3%	140,000 108,529 77.5%	140,000 119,246 85.2%	140,000	140,000 85.2%
イ 生涯学習を支援する	イ 年間来館者数	人	目標 実績 達成率	80,000 66,621 83.3%	80,000 47,668 59.6%	80,000 44,965 56.2%	80,000	80,000 56.2%
ウ	ウ		目標 実績 達成率					

③主な活動内容	⑥活動指標	単位	区分	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
ア 図書の選定・発注	ア 図書の選定・発注回数	回	目標 実績 達成率	60 54 90.0%	60 55 91.7%	60 56 93.3%	60	60 93.3%
イ	イ		目標 実績 達成率					
ウ	ウ		目標 実績 達成率					

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計	01	款	10	項	06	目	03	大事業	中事業	予算上の事業名					事業番号
	一般会計		教育費			社会教育費		社会教育施設費		51	13	図書館図書購入費				
予算(千円)	1 年度 実績	2 年度 実績	3 年度 実績	4 年度 見込	5 年度 見込	前年比	決算 (千円)	1 年度 実績	2 年度 実績	3 年度 実績	4 年度 見込	5 年度 見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財	6,037	6,030	5,977	5,846	5,846	-53	その他特財	6,037	6,030	5,000	5,846	5,846	-1,030			
一般財源	498	425	486	603	603	61	一般財源	491	379	1,395	603	603	1,016			
合計	6,535	6,455	6,463	6,449	6,449	8	合計(A)	6,528	6,409	6,395	6,449	6,449	-14			
財源名称	地域振興基金利子						従事正職員人数	4	4	4	3	3				
	図書館費雑入						延べ業務事務時間	235	235	235	235	235				
							人件費計(千円)(B)	823	786	787	804	804	2			
	最終予算額		6,463 千円		予算執行率	98.9%		トータルコスト(A+B)	7,351	7,195	7,182	7,253	7,253	-12		
主な 支出事業内容 (予算)	需用費 消耗品費				939 千円		主な 支出事業内容 (決算)	需用費 消耗品費				938 千円				
	役務費				524 千円			役務費				456 千円				
	備品購入費				5,000 千円			備品購入費				5,000 千円				

事業番号	06392	事務事業名	図書館図書購入費	所管課名	生涯学習課
------	-------	-------	----------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか? 資料購入費は「プラン21「図書館の設置と運営に関する数値基準」の50%程度を目標としているが、町財政状況及び書架数からも、基準どおりの予算確保は困難であり、算定基準の見直しが必要である。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯 半期で前年度の貸出回数等の利用状況を分析し、利用率の高い内容のものを把握するよう努めている。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか? 学校等団体からの要望が増えている。授業での利用は希望が重なるため、複本も購入してほしいとの要望がある。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由 説明	利用者からの要望と利用分析を資料収集に反映しているため、個々の生涯学習活動の充実を図ることができる。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せるとはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由 説明	他に類似施設がなく、個人では収集不可能な数の資料を共同利用できる状態にすることは、個人の経済的負担を抑えたとともに、情報収集の幅を広げることが可能となる。そのための環境整備関与は妥当である。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)			
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由 説明	常に利用者の意見・要望を取り入れ、追加・変更する。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由 説明	インターネット環境の普及により、新たな資料利用方法も出てきている。常に向上余地はあると考え、提供に関する情報収集に努める。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)		
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由 説明	他に類似施設がないため、生涯学習意欲の低下に繋がる。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)			
<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない	理由 説明	新刊を早い段階で厳選し、利用者の要望に応えるためには、図書館職員の選定作業が妥当である。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	定期刊行物(新聞、雑誌)については、利用状況を見てタイトル数の見直しが可能である。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)			
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	削減の余地はない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 説明	町民をはじめ、広く近隣住民にも無料開放しており、運用も公平・公正である。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																						
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	利用者の生涯学習意欲を常に援助するため、継続して蔵書の充実を図る。そのための分析と、業務に従事する職員の能力向上の機会を増やし、資料厳選に役立てる。																						
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																							
C 効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり																							
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																							
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																						
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		今後の改革改善案 図書館以外で本を手に行ける施設(団体)との連携を図り、利用しやすい環境を整える。																						
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題		<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	○			低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持	○																						
	低下																							
学校や園からの要望を聞く機会が減ったため、一般利用者向けとは別に、図書館側からのサービスに関する情報発信手段を検討する。		(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)																						